

自然観察 NOW

No 45号

野幌森林公園自然情報

発行：2020年3月22日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ヤナギ この時期、一番先に開花する花といえばヤマナラシですが、次に開花の早い花はヤナギです。

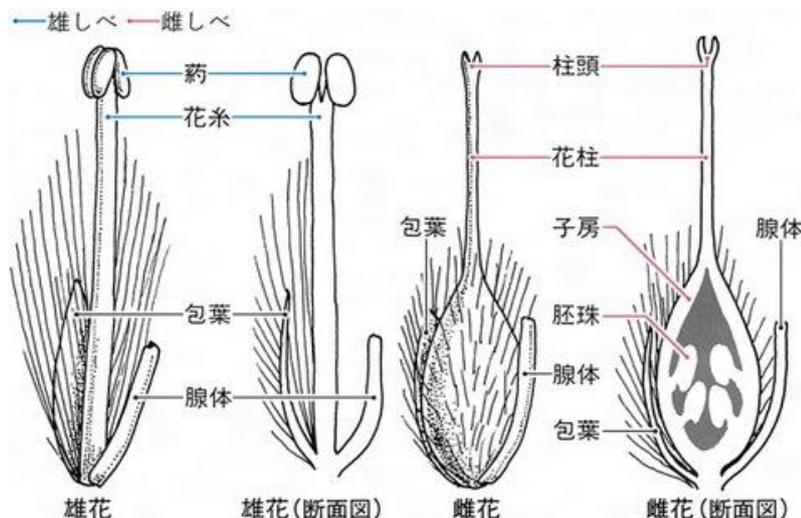
そして、話題になるのが風媒花でしょうか？虫媒花でしょうか？と質問します。では本当のところどうなのでしょう。まず、虫媒花、風媒花とは？

虫媒花（ちゅうばいか）とは、虫、主として昆虫を媒介して受粉を行う花のこと。花粉媒介の型としては動物媒のひとつ。

風媒花（ふうばいか）とは、花粉を雌しべまで運ぶための運送方法として、風に運ばせること、つまり風媒（ふうばい）を選択し、その方向へ進化した形の花、あるいはそれを持つ植物のことを指す。

ここでヤナギの特徴を記します。

ヤナギは落葉性の木本であり、高木から低木、ごく背が低く、這うものまであり、葉は互生、まれに対生。托葉を持ち、葉柄は短い。葉身は単葉で線形、披針形、卵形など変化が多い。雌雄異株で、花は尾状花序、つまり、小さい花が集まった穂になり、枯れるときには花序全体がぼろりと落ちる。ただし、外見的には雄花の花序も雌花の花序もさほど変わらない。雄花は雄しべが数本、雌花は雌しべがあるだけで、花弁はない。代わりに小さい苞や腺体というものがあり、これらに綿毛を生じて、穂全体が綿毛に包まれたように見えるものが多い。すべて虫媒花（ただしケショウヤナギ属をヤナギ属に含める場合はこの限りではない）。冬芽は1枚のカバーのような鱗片に包まれ、これがすっぽりと取れたり、片方に割れ目を生じてはずれたりする特徴がある。これは、本来は2枚の鱗片であったものが融合したものと考えられる。果実は蒴果で、種子は小さく柳絮（りゅうじょ）と呼ばれ、綿毛を持っており風に乗って散布される。なお、中国において5月頃の風物詩となっており、古くから漢詩等によく詠み込まれる柳絮だが、日本には目立つほど綿毛を形成しない種が多い。しかし、日本においても意図的に移入された大陸品種の柳があり、柳絮を飛ばす様子を見ることができる。特に北海道において移入種のヤナギが多く、柳絮の



舞う様が見られる。主に温帯に生育し、寒帯にもある。高山やツンドラでは、ごく背の低い、地を這うような樹木となる。日本では水辺に生育する種が多いが、山地に生育するものも少なくない。とあります。つまり、私たちが普段見ているヤナギは殆ど虫媒花で、ケショウヤナギだけが風媒花なのです。

図はネコヤナギの花の構造です

道内にはハコヤナギ属3種、ケショウヤナギ属1種、オオバヤナギ属1種、ヤナギ属18種が自生します。では、野幌森林公園で見られる代表的なヤナギについて掲載します。

名称 和名：オノエヤナギ

別名：ナガバヤナギ（長葉柳），ヤブヤナギ（藪柳），カラフトヤナギ（樺太柳）

アイヌ語名：スス susu など 漢字表記：尾上柳

学名 *Salix sachalinensis* Fr. Schmidt

分布 北海道，本州，四国，千島，サハリン，カムチャッカ，ウスリー，アムール

生態・形態

湿地や川岸に生え，高さ25m，太さ40cmになる。枝はまっすぐで開出しない。葉は革質で細長く，先が長くとがり，基部はくさび形，鋸歯はないか波状の鋸歯縁，少し裏側へそりかえり，表面は暗緑色，無毛，光沢があり，裏面は淡緑色または紛白色，長さ10～16cm，幅1～2cm。雄花は円柱形，長さ2～4cm，径10～12mm，葯は黄色で先が赤い。雌花は2～4cm，径8mmで果穂は長さ4cmになる。道内では分布がたいへん広く，最も一般的な種であるが，特徴がなく鋸歯がはっきりしない個体では同定が困難なことがあり，特に葉縁の巻込みが大きな個体はエゾノキヌヤナギとの区別に注意を要する。アイヌ語でも本種が基本的なヤナギとして呼ばれている。和名は四国からの報告に基づくため尾上（尾根の上）とされ，本州でも山地に分布するが，道内では河畔林が分布の中心でありやや違和感がある。

名称 和名：エゾノバッコヤナギ

別名：エゾノヤマネコヤナギ（蝦夷の山猫柳），コウライバッコヤナギなど

アイヌ語名：チプ（ニ）スス chip- (ni-) susu（舟になる柳）など 漢字表記：蝦夷の婆っこ柳（婆っこはお婆さん（東北方言）で，花を老女の白髪に見立てた）

学名 *Salix hultenii* var. *angustifolia* Kimura

分布 北海道，南千島，サハリン，カムチャッカ，朝鮮半島，中国東北部，シベリア東部

生態・形態

広く山地や平地に生え，落葉広葉樹と混生する。高さ15m，太さ60cmになる。樹皮は暗灰色，古くなると縦に不規則な割れ目ができる。葉は楕円形または長楕円形で波状鋸歯縁か全縁，長さ8～15cm，裏面に密毛がある。雄花は葉より先に咲き，楕円形，長さ2～2.5cm，径1.8～2.5cm。雌花は円柱状長楕円形，長さ2.5～3.5cm，径1.4～1.7cm。

名称 和名：エゾノカワヤナギ

漢字表記：蝦夷の川柳

学名 *Salix miyabeana* Seemen

分布 北海道，本州，四国，九州，朝鮮半島，中国東北部

生態・形態

川の砂礫地や岸に生える低木または小高木で高さ5mほど。葉は長さ6～16cm幅1.1～2.7cmと細長く，先はとがり，基部は鋭形，細鋸歯があり，表面は緑色，光沢があり，裏面は淡緑色で光沢はない。細長い托葉がありヤナギ類としては大きく，長さ2.2cmに達する。花は葉より先に咲き，雄花は長さ4cm，葯は黄色。雌花は長く4～8cm。

観察会の案内

4月16日（木）10:00～12:30 春の花を見つけよう 自然ふれあい交流館 集合・解散

参考文献など

林産試験場データベース、ウィキペディア参照

文責：小林 英世